

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年1月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1172800516
法人名	社会福祉法人永仁会
事業所名	グループホームSAKURA
所在地	358-0026 埼玉県入間郡大字小谷田1655-1 (電話) 04-2963-4888

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年1月30日

【情報提供票より】(平成20年1月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	12 人
職員数	11 人	常勤 7 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	9.48 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(1月30日現在)

利用者人数	11 名	男性	0 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	77 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	入間ハート病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは自然豊かな場所に、介護老人福祉施設の併設施設として建てられている。生活の場は全面床暖房となっている。また、利用者は居室にしながら、四季折々の変化を肌で感じ生活しやすい環境作りがされている。健康管理面においては、栄養士や法人の看護師に相談し、指導を受け対応している。職員は世話する人、世話される人の関係ではなく、家族のように支え合い、助け合いながら生活を共にしている。また、毎日のケアに満足することなく、利用者の生活の質を高める努力、支援のあり方について意欲的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果については、全職員に報告し改善すべき点については改善チャートを作り、業務改善につなげている。口腔内の清潔については、できる人は自分で、できない人は介助している。緊急時の対応については、それに関する知識・技術を持つ職員を育てている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は自己評価の目的を理解し、日々実践を振り返りながら全職員で取り組んでいる。なお、評価の結果については、改善項目に沿って検討し実践につなげる努力をしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>現在設置されていない。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>意見箱を設置しているが、家族懇談会を開催したり面会時に対応することで現在は利用されていない。意見がある場合はスタッフ間で、問題に応じては法人全体で対応し、運営に生かしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域から運動会や稽古等の発表会に招待されても、出かけるのは体力的に難しくなってきたため、地域住民をホームの行事に招待し、地域との交流を図る努力をしている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人達と気軽に行き交い近所付き合いを広げるような生活作りを目指し、地域との結びつきを重視する理念が作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時のオリエンテーションの中で必ず理念を伝え、理解を得るように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民から小学校の運動会や祭り、稽古の発表会等に招待されても、出かけることが体力的に難しくなってきたため、地域住民をホームの行事に招待し、地域との交流を図る努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価については、全職員に説明し、取り組んでいる。また外部評価の結果についても全職員に報告し、改善すべき点については、改善チャートを作り、業務改善につなげている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ開催していない。		地域密着型グループホームを地域の人々に理解してもらい、協力を得るためにも運営推進会議を開催してほしい。運営推進会議を通して、グループホームの現状報告や外部評価の結果を報告し、意見をいただきホームの質の向上につながることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折りに触れ伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族懇談会を年1回、個別の面談を年2回行っている。家族の訪問も週1回以上あり、本人との面会時間を大切にしながら近況報告を行っている。なお、ホーム便りなど、面談以外の方法での報告はしていない。		グループホーム全体の活動状況やニュースなどを確実にかつ定期的に知らせるために、グループホームだよりの発行を期待する。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族懇談会の開催や、面会等で家族からホームの意見や苦情を受け付けている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所側の都合により異動や離職は最小限に抑える努力をしている。新しく入る職員は利用者と共に受け入れ、お互いに協力し合い、職員と利用者が良い関係で仕事ができるように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所以外で開催される研修には、多くの職員が受講できるように努力している。研修内容については全体会議で報告し、職員間で共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会には登録しているが参加はしていない。		今後グループホーム協議会の活動に参加して、事業者同士協働しながら質の向上に取り組んでいくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービスを利用する場合、不安を少なくするために家族や利用されていた同一法人のデイサービスの職員などにホームに来てもらい、雰囲気に馴染めるように工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>介護する人、される人の関係ではなく生活を通して互いに認め合い、喜怒哀楽を共にしている。また、利用者の一言から大きな学びを得ることも多々ある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者との会話を通して利用者の希望を把握し、希望があれば希望に沿うように努め、本人の意向に沿うように努力している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族、関係者から希望や意見を聞き、職員間で検討し、利用者中心の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に1度達成状況を評価し、計画を作成している。見直し以前に変化が生じた場合には介護計画を検討し、現状に即した計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との外出や外泊の対応は柔軟に支援している。病院受診時の送迎などの介護職員を配置し対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医を利用している人もいるが、多くはホームの協力病院をかかりつけとし、通院の際には同法人内の看護師が同行し受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は立てていない。		利用者の高齢化に伴う課題として、重度化や終末期に向けて方針を立てておくことを期待する。法人の看護師を中心にホームとしての方針を立て、方針に沿ってできることから準備や勉強会を始めてもよいのではないかと。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライベートに配慮し対応するように努めている。職場で知り得た個人の情報については、外に漏れないようにプライバシーの保護に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なホームの1日の流れはあるが、利用者一人ひとりの体調に合わせて生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の栄養士が作ったものが運ばれてくる。利用者と職員と一緒に、盛り付け、食器洗い、後片付けをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿って入りたい時間に入浴し、入浴を楽しめるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	いろいろな場面を通して個人の力が発揮できるように努めている。それが本人の負担にならないように注意を払っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃は利用者自ら庭に出たり、家族と散歩や外食などに出かけ、気分転換が出来るように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物は3階建てで、1階のグループホームの玄関は、2階3階の老人ホームと共有のもので鍵で管理されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で避難訓練、避難経路、消火器の使い方などの訓練は定期的に行っている。マニュアルもできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立て、栄養バランスのとれた食事を提供している。食事摂取量や水分摂取量等に問題が生じた場合には、栄養士や看護師に相談し検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感のある音や話し声などは大切にしている。季節感のある花などの飾り物により、いつもの自分の居場所で安心して過ごせる工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、馴染みの物を持ち込むことができる。食器等も使い慣れた自分のものを使用している。		